

遠賀川流域 団体紹介

遠賀川流域だより

第22号
平成23年11月

日本野鳥の会筑豊

・筑豊に「野鳥の会」が出来て今年で40周年を迎えました。
 1971年に発足し、今年40周年を迎えた「日本野鳥の会筑豊」発足時には12人だった会員の数も現在では250人を超え、会員は今も増え続けています。
 会の主な活動は、定例探鳥会(バードウォッチング)を年24回、植物観察会を年11回行っています。更に会では「野鳥だより筑豊」という情報誌を毎月発行しており、1975年の発刊から今年の6月号で400号の大台を達成し、会員の情報共有に大いに役立っています。



会報誌



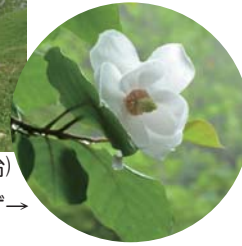
カワセミ



探鳥会 野鳥の様子を観測中



植物観察会で山歩き(平尾台)



オオヤマレンゲ

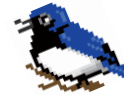
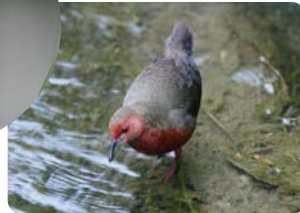
・野鳥の目線から見た遠賀川とは

遠賀川は古来より恵まれた自然環境のおかげで数多くの野鳥の生息地となっています。冬には大陸から越冬の為に多くの渡り鳥が遠賀川に飛来し、冬をここで過ごす鳥や、更に南下する鳥など、多様な野鳥を見ることが出来ます。



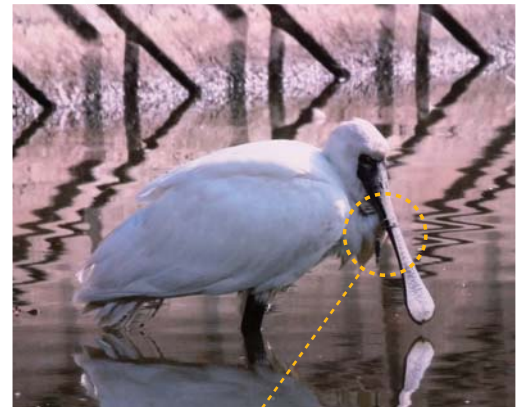
良質な繁殖地のひとつ
遠賀川の葦原(あしはら)

国の絶滅種Ⅱ類に指定されている
オオヨシキリ(左)と
ヒクイナ(下)



・釣りゴミは野鳥の天敵です。

ゴミで川が汚れば生息する魚や植物など、鳥の餌が減るのはもちろんですが、時に鳥の命を脅かす事もあります。釣りで捨てられた釣り糸や針などが鳥の足や翼に絡まり飛べなくなったり、くちばしに巻きついてエサが食べられず餓死した鳥等、釣具が原因となって命を落とす事例が増えています。
 釣具を捨てる事は鳥にとって最も危険な行為なのです。



くちばしに釣り糸が絡まって餌が食べられず
餓死した絶滅危惧種のクロツラヘラサギ
(中尾 寛大氏 撮影)

・これからの活動とは

野鳥は自然を写す良い指数となります。世界では、「鳥類を指標とした重要な自然環境」を選定し、それらを国際的なネットワークとして、持続的な保全や管理を実現しようとする取り組みが既に行われています。
 会では40年にも渡って筑豊地区の野鳥を観察し続け、膨大な観察データを持っています。今後も活動を受け継ぎ、継続する事がひいては環境問題を考える良い指標となると考えています。そのためにも、子供から若い世代、団塊の世代と幅広く、入会を呼びかけ、活動を続けていくことが重要だと考えています。

日本野鳥の会筑豊

〒820-0011

住所 飯塚市柏の森162-3

電話 0948-23-1011

ホームページ <http://yacho.org/index.html>



詳しい情報はWebで!! 「遠賀川河川事務所」のHP版の「流域だより」にはより詳細な情報と、たくさんの写真も掲載されています。※検索画面において、**遠賀川流域だより ダウンロード** で検索してください。

遠賀川流域活動報告

◆香春町◆

金辺川のめだかの学校へようこそ 7月21日(木)

[詳しい記事を見る](#)

遠賀川上流の支川 金辺川には、絶滅危惧種であるオヤニラミやギギ、カネヒラを含む約30種の魚がいると言われています。

金辺川のもっとも上流にある小川(呉ダム渓流公園)において、近くの大学などの協力で開催された”めだかの学校”に小学生20人が参加しました。

参加した子供たちは、家の近くの川とは違った魚達や、上流の水の綺麗さに驚いていました。



まずは川の水質調査から



何の生物が捕れたかな？



捕った生物をエサに魚釣り



調査結果をまとめて、みんなの前で発表をしました。



◆遠賀川流域◆

遠賀川の源流で下草刈りを行いました。 7月24日(日)

[詳しい記事を見る](#)

遠賀川源流の山を手入れして、木を育てる事で、河川を守る事に繋げていく活動が「遠賀川源流の森づくり推進会議」の皆さんによって続けられています。

今回の活動も会の活動拠点である遠賀川源流近くの馬見地区で開催され、今年の3月に植樹した落葉広葉樹の「下草刈り(幼木育成の為に周りの草を刈り取る)」を実施しました。

参加された皆さんは、地元の方は勿論の事、遠賀川流域で河川活動をされている団体の皆さん、地元企業の皆さん、また、嘉穂総合高校大隈城山校の生徒の皆さんなど、遠方からの参加も含め、総勢100名程の方々が参加されました。



開会式の様子



植樹した周辺を草刈り



植樹した木が、草で隠れてしまってます。



かなり標高の高さと勾配です



CM「森の木琴」を観賞



木琴のミニチュア

開会式では、「この近くの森で撮影され」2011年カンヌ国際広告祭”のフィルムクラフト部門で金賞など計3部門を受賞したCM「森の木琴」が披露され、木琴のミニチュア版(実物(約4.4m)の10分の1の大きさ)も登場し、木琴が奏でる音色と共に参加者一同でこの快挙を祝いました。

映像はインターネットでも公開されていますので、ご覧になりたい方は「森の木琴」で検索してみてください。

◆中島地区◆

竹の有効活用 竹炭づくり(準備編) 7月24日(日)

中島自然再生ワークショップ協議会(愛称タブリン)は、中島自然再生事業の基本方針の一つである「人と川との絆の再生(地域連携)」の一環として、住民主導によって立ち上げられた協議会です。

会では中島に群生する竹の活用策として、竹をチップ化して防草材として使用したり、舗装の材料とするなど、今までに様々な方法を検証してきましたが、今回は竹を焼いて作る竹炭を河川や水路の水質の浄化に活用するため、竹炭づくりに取り組みました。

竹を炭にして水質浄化に活用するには、炭には微細な穴がたくさんあり、ここに有機物などの汚染物質が吸着する事で、水の濁りや汚れを減少させ、河川の水質の向上になると言われているからです。

今回の作業は、竹林を伐採し、竹をある程度の大きさに割り揃えて、ドラム缶で作成した窯に詰め込むまでを行いました。後の工程は、次号以降でお伝えする予定です。



汗を流しながら竹林の伐採



竹を同じ大きさに割り揃え



窯となるドラム缶に竹をキッチリと詰め込んでいきます



皆さんおつかれさまでした

◆直方市◆

水路が川に生まれ変わる時 7月30日(土)

[詳しい記事を見る](#)

下境第二排水樋管の水路の改修工事は、「生物の棲みやすい川づくりを考える会」のメンバーや、地域の人々が協力し、現地環境の把握（水質調査や生物・植生調査）を重ね、生物が棲みやすい環境と人々が安らげる空間の両立を目指した多自然型施設として今春無事に完成しました。

しかし、完成直後の大雨で延長100mの水路は完全に水没、その影響を心配した会のメンバーが急遽水路の傷み具合などを調査しました。

その結果、施設の損傷は確認されず、出水を受けたことで、土が不均等に広がり、より自然な川に近づいた印象。調査は今後も実施され、水路の経年変化を取りまとめる予定です。



お魚博士から魚取りの網の使い方などの講習



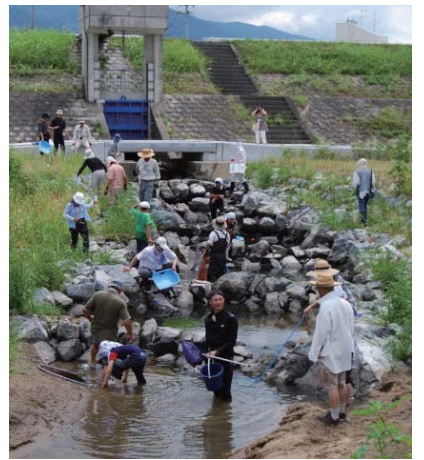
何の生き物が捕れたのかな？



捕れた生き物たち（メダカ・ザリガニ・ヤゴ・オイカワ・タニシなど）



川の水の透明度を調べます



石組みで造られた水路で自然に近い環境

◆小竹町◆

彼岸花が咲き誇る河川敷をめざして 7月30日(土)

[詳しい記事を見る](#)



7月30日(土)、NPO法人「小竹町に住みたい」まちづくりの会のメンバーが中心となって地元の住民が集い、小竹役場前の遠賀川河川敷（約1,000㎡）に、6,000球の彼岸花の球根が植えられました。

会では、長い間、春と秋に草刈りや清掃活動を続けており、今回の彼岸花の植栽もこの一環だそうです。

会の方は「この河川敷でみんなが集える場所に」や「秋の新しい遠賀川の風物詩になれば」と話されていました。

◆直方市◆

けっこう燃えます！ 水上の真剣勝負 7月31日(日)

[詳しい記事を見る](#)

筑豊の夏の風物詩「遠賀川川下り大会」が今年で32回目を迎えました。大会には、イカダと舟の部門があり、手づくりのイカダや舟で競争します。

大会のコースは飯塚市芳雄橋から直方市菜の花橋までを下る延長約22km。その途中には行く手を阻む”堰”が4箇所もあり、ここでは舟を一旦陸に上げ、堰の下流へ舟を担いで運ばなければならないルールになっており、更に今年は川の水量が少なく浅瀬が多い事から、ここをいかに素早くクリアするかが勝負の行方を左右しました。

今年の優勝は、イカダ部門が「ハイブリットのお店福岡トヨタ」チームで3年連続の優勝の快挙。タイムは2時間48分38秒でした。

舟部門は、「海面クラブ レディース」チームで、タイムは2時間23分でした。



芳雄橋から各舟一斉にスタート



7月30日の前夜祭の様子 最後のイカダや舟の点検が行われていました。



優勝した「福岡トヨタ」チーム(左)と「海面クラブ レディース」チーム(右)



ゴール前の接戦 その差は2秒！



2人力の足こぎ動力付きイカダ



完走に笑顔100%でした。



川にダイブで打ち上げです。

11月11日は「鮭の日」 今年も鮭が遠賀川に戻ってきます

長く続いた残暑もようやく収まり、季節は秋の装いに変わってきました。この頃から遠賀川では、ある旅人が4～5年の長旅から帰ってきます。それが表題の答えであり、今回の主役です。

なぜ11月11日なの？

この日がなぜ「鮭の日」というと、漁業関係者がこの時期の旬の魚である鮭の消費を促すためのアピールと、「鮭」という漢字が魚へんに漢数字の「十一十一」と書くことから制定されたそうです。

(11月11日)
鮭 → 十一十一

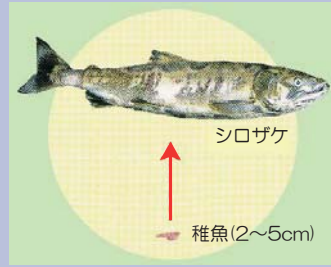
鮭の一生



秋に産み付けられた鮭の卵から二ヶ月ほどでふ化した稚魚



春先には、北の海を目指して旅立ち、4～5年で60～80cm程に成長します。そして、産卵の時期を迎えると故郷の川へ帰ってきます。



稚魚(2～5cm)



故郷の川で産卵が終わるとその命を終え、死んでしまいます。

献鮭祭は毎年12月13日に行われます。



福岡県嘉麻市大字大隈には全国でも珍しい鮭神社という名前の神社があります。今から1200年ほど前(西暦769年)の奈良時代に、温暖でしかも海から12里(今の48km)も離れているこの地に鮭が登ってくる事に驚き、「鮭が海の神様の使いとしてのぼってくる」と信じられ、鮭を神として崇める鮭神社が造られました。

昭和の初めごろまでは川を埋め尽くすほどの鮭がのぼっていたそうですが、その後は炭坑産業の発展で川が真っ黒ににごり、全く戻ってこなくなりました。

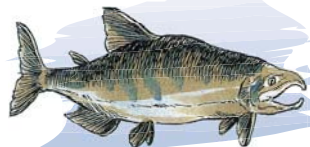
その後、炭坑が閉山となり、川も少しずつきれいになってきた昭和53年12月13日、鮭が数十年ぶりに遠賀川で発見されました。奇しくもその日は、鮭がいなくなった後でも鮭神社において脈々と続けられていた鮭のお祭り”献鮭祭(けんけいさい)”が行われてた日でもありました。



この奇跡的な偶然をきっかけに、遠賀川に鮭を呼び戻す運動が始まり、鮭の孵化から稚魚の放流、河川の清掃活動や魚道の設置要望に取り組み、鮭は少しずつ帰ってくるようになりました。

そして、今年も鮭が戻ってくる秋を迎え、関係者や地元では元気に帰ってくる鮭を心待ちにしています。

遠賀川河川事務所では、遠賀川水系に遡上している鮭の情報を募集しています。



孵化場で育てた稚魚を旅の無事を祈って川に放流

鮭らしい物体を見つけた方は下記の連絡先まで情報をお寄せ下さい。

流域内のイベント等の予定

- ・ 11月27日(日) 11時00分から
- ・ 11月27日(日) 13時30分から
- ・ 12月 3日(土)
- ・ 12月13日(火)

サケのふ化飼育場落成式
第2回遠賀川交流会
遠賀川流域活動団体報告会
献鮭祭

【場 所】

嘉麻市馬見山キャンプ場上
嘉麻市山田生涯学習館
嘉麻市 鮭神社

遠賀川流域だより

発行 国土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949) 22-1830

FAX (0949) 22-2859

HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>



皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

協力 NPO法人遠賀川流域住民の会

電話 0948-22-3535

<http://www.ongagawa.jp/>